心豊かな世代が育つ童話の里づくり 437

―シリーズ― あなたの人権・わたしの人権

「人を思い合う気持ち」

くす星翔中学校　2年
加藤　愛菜

私は中学生になってからバスケットボール部に入りました。

部活に入って、初めての練習試合に行くことになり、とても緊張していました。その緊張は相手に勝てるかどうか勝敗のことばかり考えていたからと、初めてというわくわくする気持ちからだと思います。

その試合の時に、私は相手チームの人とぶつかり転んでしまいました。ぶつかった相手の人が

「大丈夫ですか。」

と言いながら、手を差し出してくれました。こんな小さなことですが、私はすごくびっくりしてしまいました。驚きながらも

「あ、ありがとうございます。」

と言えたつもりです。

確かに、テレビでバスケットボールの試合を見ていても、実際の部活でも、転んだりケガをしたりすると、多くの人が

「大丈夫？」

とかけつけて声をかけています。でも、このごく当たり前のことをさっと当たり前にできることに感動しました。

以前、私たちのバスケットボール部は、試合相手を敵視しすぎていました。相手がミスをすると、

「よっしゃあ！」

「ナイス！」

などの声を出してしまうことがありました。

ですが、今は自分たちのチームも相手のチームも尊重し合い

「ファイト！」

「次、次！」

などの次のプレーにつながっていくような声を出す人がとても多くなりました。

このようにチーム全体、または一人ひとりが自分も相手も尊重し合い、思いやりを持つことが人を大切にし、自分たちの良いプレーに大きく影響しています。

部活に入ってからは、自分だけでなく、他の人を考えた行動をとるという当たり前だけど難しいことを一人ひとりがしていく大切さを深く知りました。

また、他の人のことを考えた行動を取ることで、言葉や声かけが大きく変わり、自分たちの課題や欠点に気付き、乗り越えることができました。

今回のこの二つの出来事から知ったことを活かして変われたのは、一緒に行動するチームメイトがいたからこそだと思いました。

「思いやりのある行動をする」という考えや「課題や欠点を乗り越える」という目標は、一人でしてもほとんど何も変わりません。

ですが、チームメイトという仲間がいることで、小さな行動も大きく広がり、全員で課題を乗り越えていくことができました。

仲間といっても部活のメンバーだけではありません。クラスメートのことも仲間というし、家族というのも仲間だと思います。

だからこそ、自分の「人を思う」気持ちをまずは身近な仲間から広げていけると、とても良いなと思いました。

人それぞれの個性を大切にし、自分中心ではなく、自分も他の人もみな平等に扱うことで、一人ひとりの人権を大切にできると実感する良い機会となりました。

どんな時でも自分の意見や気持ちだけを優先するのではなく、いろいろな意見や考えを大切にしていくことを心がけていきたいと思います。

この人権作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みなさんの投稿もお待ちしています。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを一二〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して（匿名も可）、玖珠町教育委員会社会教育課「あなたの人権・わたしの人権」までお届けください。